

【別紙様式 I】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立相川小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 大田垣 洋

学校教育目標		学校経営の方針		
確かな学力と 豊かな心をもち 未来を切り拓く 児童の育成		○教育基本法等関係諸法令並びに学習指導要領・神奈川県教育ビジョン・厚木市教育大綱に基づいた学校経営を展開する ○児童・保護者・地域の実態を踏まえ、「地域とともにある学校」づくりをめざし、全教職員と保護者・地域の協働による学校運営が図られるような学校経営に努める ○児童が安心・安全に生活・学習できるように危機管理体制を確立した経営に努める		
今年度の重点目標				
(1) 学ぶ力の育成(生きる力の育成、確かな学力の向上をめざす) (2) 豊かな心・健やかな体の育成(豊かな心の育成と安心・安全教育、健康教育・道徳教育の充実を図る) (3) 自ら未来を切り拓く力・実践力の育成(自主的実践的な態度の育成、環境教育の充実をめざす) (4) 学校管理体制の確立・地域とともにある学校づくり(学校管理体制の確立と開かれた学校づくりをめざす)				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
(1)学ぶ力の育成 ○確かな学力の向上をめざして ○地域との連携による授業の創造 ○幼・保・小・中との連携 ○歌声あふれる学校	1・3	・確かな学力の向上 ・指導方法の工夫改善 ・効果的な教育課程の編成 ・地域教育力の活用 ・幼保小中の連携 ・ICTの効果的な活用	・校内研究「意欲を高めるICT授業の工夫」を通して、積極的に授業の中でICTを活用する機会が増え、授業の幅が広がった。 ・学力向上に関する取組を「学力向上カレンダー」にまとめ、年間を見通し計画的に進めることができた。 ・全国学力・学習状況調査の結果や、ベネッセ学力調査(算数)の結果を考察し、児童につけさせたい力について検討することができた。 ・家庭学習の手引きや音読カードを使い、家庭学習の習慣化を進めた。 ・学校司書に学習に関する資料の準備、授業中の支援や図書室運営をしてもらうことで、調べ学習、読書月間の活動などに深まりをもたせることができた。また、読書スタンプカードや本の福袋といった図書室に足を運ばせる工夫を通して委員会活動も活性化された。 ・地域、保護者の協力が得られ、田植えや稲刈り、いもほり等では、地域の教育力を生かした授業を行うことができた。 ・学校運営協議会では、各部会ごとの打ち合わせをもった。本の読み聞かせや家庭科ボランティア・九九塾等を中心に、たくさんの地域の方や保護者が支援をしてくれている。 ○ICTについては、技能とともにモラルやマナーについても学び、情報機器が正しく活用できるようにしていきたい。	・学力向上については、教師間で共通理解を図り、確実に課題への取組を行いたい。 ・わかる授業の実践に取り組むとともに、主体的に取り組む児童を育成する。 ・学校運営協議会と連携し、地域の教育力を生かした授業を実践し、授業ボランティアの活用を進める。 ・家庭学習の習慣化をさらに進められるよう家庭との連携を行う。 ・漢字や言語能力の定着については、各学年で習熟方法の工夫を模索する。 ・「特別の教科道徳」を通して自分の考えや思いをまとめるようにする。

(2)豊かな心・健やかな体の育成 ○個を大切にした支援教育の充実 チームで取り組む児童支援 ○きめ細かな児童指導の推進 ○児童の安全確保と危機管理体制の維持・推進 ○健康教育の推進 ○体力づくりの推進 ○たてわり清掃活動	2・3	・学習面や生活面の個別支援のニーズの把握と対応 ・職員間の情報共有と必要に応じたケース会議の実施 ・相川小スタンダードの精選/改訂 ・実践的な避難訓練の実施 ・情報モラル教育の実践 ・包括的性教育を含めた健康教育の推進 ・運動に親しむ機会づくり(委員会活動) ・たてわり清掃による校内環境整備	・今年度は表面化しにくい課題や困難さを早期発見することを目指してスクリーニングを実施(6月・11月)。結果の共有と活用に関しては検討の余地があり。 ・登校渋り、不登校傾向にある児童においては、校内連携(保健室・心の相談室・SC)や学級担任による家庭訪問、保護者面談において途切れずに関わり続けることができています。また、フリールームを整備したことで、登校するきっかけをつくることができた。 ・情報モラル教育においては、児童指導担当が中心となり、4年生～6年生において外部講師(NPO法人、警察署)の講演を行うとともに、保護者への啓発を目的として3学期の学級懇談会において情報共有をする場を設けた。 ・相川小スタンダードの精選/改訂を行い、学校生活の約束事について守っていききたいことを明確化、再確認を行った。 ・夏場の安全面への配慮(熱中症予防)から、ランチルームの開放を行った。 ・包括的性教育の考えを取り入れ、自他の命を大切する心情を育めるよう養護教諭を中心に授業を実施。今後も試行錯誤しながら系統的に展開していく必要がある。 ・学校保健委員会においては、ここ数年は自己肯定感や対話など「こころ」の側面を中心に扱っているため、来年度は身体面について取り上げてみたい。 ・週3日のたてわり清掃活動で足りない部分は、用務員やスクールサポートスタッフの協力も得ながら、校内の衛生環境を維持することができた。	・情報モラル教育においては、学校へ行こう週間に日程を合わせることで、保護者の参観も促していく。 ・引き続き、教職員の情報共有やスクリーニングの機会を生かし、全校児童のニーズを把握し、必要な支援の検討、実践に繋げられるようにしていく。
(3)自ら未来を切り拓く力 実践力の育成 ○自主的・実践的態度の育成・自己肯定感を高める活動の推進 ○人権教育の充実とインクルーシブ教育の充実 ○道徳教育「特別の教科 道徳」の充実 ○情報教育・プログラミング教育の推進 ○環境教育(SDGs)の充実	2・3	・自主的実践的な態度の育成 ・人権教育・インクルーシブの充実 ・道徳教育の充実 ・環境教育(SDGs)の充実	・相川冒険隊(縦割り活動)は、異年齢での交流を深めることができたが、それぞれの児童がさらに活躍できるように、児童の役割を明確にすることが大切であると感じた。また、上学年をリーダーとして活動することができているので、主体性や自主性を伸ばしていきたい。 ・児童会の発信により、ハッピープロジェクトの活動を行うことができ、児童の主体的な活動を引き出した。 ・人権に関わる内容については、児童会からの提案を受けて、活動を継続することができた。 ○環境教育については、委員会相互に関わりをもち、環境やSDGsについての取組を考えていければよかった。	・相川冒険隊の活動は、人間関係力の育成に効果的である。次年度は、班の数を少し減らし同じ学年の児童が複数いる編成にする。各学年の児童それぞれが相談しながら、自分たちの役割を果たしていくようにすることで活動機会を見直していけるとよい。 ・インクルーシブ教育を組織的に推進していくために、校内研修の実施を進め、本校の実態を見つめながら授業づくりや学級づくりの充実を目指していく。 ・人権教育については、次年度も引き続き、児童会を中心に活動を進めていく。すべての児童を多面的に見ていくことに努めていく。 ・環境教育では、委員会を通してSDGsに関する活動や発信ができるようにしていけるとよい。

(4)学校管理体制の確立・地域とともにある学校づくり ○「地域とともにある学校づくり」「開かれた教育課程」の推進 ○学校評価と連動した組織運営の確立と学校情報の発信 ○危機管理体制の確立 ○組織運営を考えた学校配当予算と補助金の適切・効果的活用 ○地域とともにある学校を目指した施設活用・開放の推進 ○「働き方改革」の積極的な推進	3	・学校運営協議会の運営・充実 ・地域学校協働活動の推進 ・危機管理体制の確立 ・学校情報の発信 ・働き方改革 ・情報機器の管理	・地域学校協働活動に向けて、夏季休業中に運営協議会委員と職員とで、活動の趣旨について共通理解を図れるよう、講師を招いて研修会を実施した。また、次年度の地域学習の充実に向けて、地域資源についての情報収集の場を設けた。 ・危機管理体制の確立について、市教委と連携し、非常時に対する備えだけでなく、学校の施設面においても、安全点検をもとにした環境整備や迅速な修繕対応等により、児童の安全確保に努めることができた。 ・学校情報の発信について、学校ホームページ、学校だより、学年だより等、各種媒体を通して、発信することができた。 ・学校配当予算、交付金について、児童の学習活動の基盤となるよう有効に活用した。 ・働き方改革について、勤務超過が大きくなるよう、グループを中心に協力し合って取り組んだり、職員室内で声を掛け合ったりした。 ・情報機器の管理について、管理簿を整理し、適切に管理することができた。 ○課題としては、今後も引き続き、地域に開かれた教育課程の実施に向けて地域との連携を進め、より効果的な地域、保護者、学校とのつながり方を模索していきたい。また、学校施設等の管理、予算についても、市教委と相談、連携しながら適切な管理、運用を続けていきたい。	・学校運営協議会については、地域学校協働活動との関わりも含め、地域、保護者、学校とで、子どもを中心に置き、コミュニケーションを図っていききたい。 ・地域学校協働活動の推進に向けて、学校運営協議会と合わせてこまめな情報交換や連携を進め、地域人材活用・地域における学校の役割などをふまえ、教育課程・学習活動等の充実を図りたい。そのために職員にも様々な分野での地域理解の啓発を図る。 ・安心・安全な学校を目指して、緊急時の対応や防災面について等、体制を整えるとともに、今後も研修を重ねていきたい。 ・学校予算の執行、施設管理については、事務、管理職と連携し、チェックを行い、適切な管理に努めていく。 ・働き方改革についても、校務分掌の見直しと合わせたグループ内の職員の連携、各学年の取組の見直しや地域人材活用など通して、見直しをもって年間の教育課程が実施できるように努める。
--	----------	--	---	---

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校運営協議会は年3回の計画だったが、それ以外にもこまめに学校と情報交換し連携を取り、環境整備等の活動をすることができた。
今後は「開かれた教育課程」として学習年間計画等についても学校と情報共有し、学習活動に関わる機会を増やすなどしながら、地域学校協働活動を推進していきたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

<まとめ>

学校教育目標の「確かな学力と豊かな心・豊かな生活・豊かな未来をもち 自ら未来を切り拓く児童の育成」に向けて、各グループ協力し合い、取り組むことができた。

【学ぶ力の育成グループ】では、日頃の授業研究や校内研究である、ICTを活用した授業を推進してきた。低学年から高学年まで、意欲を高めるためのICTの活用を研究してきた。また、学力向上に関する取組を「学力向上カレンダー」にまとめ、年間を見通し計画的に進めることができた。

【豊かな心・健やかな体の育成グループ】では、安全で安心できる学校づくりを目指し、取り組んできた。地震や火事、不審者を想定した避難訓練では、児童が自ら命を守るための行動を、繰り返し指導を行ってきた。また、児童のニーズに合わせて、フリールームなどの環境を整備したことで、児童の心の安定にも努めることができた。

【自ら未来を拓く力・実践力の育成グループ】では、主に人権教育の推進、インクルーシブ教育の推進を教育活動全般で進めてきた。環境教育について、春と秋に敷地内の草地や河川近くのふれあいの森を活動の場にして、自然を観察する活動を継続している。児童にとって、身近な自然とのふれあいの場が、環境について考える良い機会となっていた。

【学校管理体制・地域とともにある学校づくりグループ】では、施設の安全管理・活用について、市教委と相談・連携し、児童の安全のために施設管理ができた。また、地域との連携においても、児童の安全見守りをはじめ、多くの学校行事で協力していただいた。地域の力によって、児童の学びが広がり、安全に実施することができた。

本校は小規模校であるため、各個人の校務の多さはあるが、全教職員で協力し、教育活動に取り組めたことが非常に良かったと感じている。一方、良い面だけでなく、それぞれのグループにおいて、課題を見つけ次年度に生かすための学校評価も定期的に行っている。さらに、保護者の皆様からの学校評価も、次年度の学校経営に生かしていきたい。

<次年度への活動方針>

今年度の教育活動全体を通して、保護者、地域の方々に支えられていることを、改めて強く感じた。深く感謝するとともに、地域の中の学校であることを再認識し、これからの相川小学校を地域と共に作りあげていきたい。